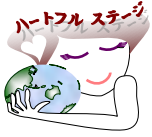


おっとくだね!

ちゅーぶ

発行：中部生涯学習センター TEL 084 (932) 7265
〒720-0812 福山市霞町一丁目10番1号 FAX 084 (928) 8609
tyuubu-shougai-gakushuu@city.fukuyama.hiroshima.jp



ハートフル ステージ 報告

Part 1 1月26日(土)

「災害に備えた地域づくり」

～私たちが今できること～

講師 危機管理アドバイザー・日本で一人の防災家
野村 功次郎さん



講師の野村さんは、23年間の消防士経験で得た知識を生かし、災害・救急・防災の実際の現場で防災家・危機管理アドバイザーとして活動されています。『「災害」とは火災・水害・事故・犯罪すべてであるという認識を持つことで、危機管理の基本、予測(チェック)・予防(アクション)・対応(トレーニング)を守ることが重要である。』と話されました。

『また数字は惑わされやすく、ハザードマップなどはそれぞれ置かれている環境で違うため、目安にはなりにくい。マニュアルに振り回されず、自分時計を持つことが大事。そのためには、家族・身内・地域の中で災害時、一緒に動くルールや判断する要因を持つことが生きるすべである。』とも話されました。災害時一番大切なことは、社会的立場の弱い人への配慮、そして避難所生活を強いられている人の生活に心を寄せ続ける人権感覚・人権意識をもち、「生き残る」ではなく「生き延びる」こと、そしてまずは自らの命を守る行動をすること」が大切であると教えていただきました。これから備えるべき自然災害の危機の中、あらためて、自分自身を見つめなおすことができるお話でした。

Part 2 2月17日(日)

「心のスイッチがオンされる出会い」

～阪神・淡路大震災の経験を通して～

講師 阪神・淡路大震災命の語り部
広島と福島を結ぶ会代表 加藤 りつこさん



阪神・淡路大震災で神戸大学法学部2年生だった最愛の息子さんを亡くされ、生きる気力を無くされていた加藤さん。息子からの一通の手紙がマスコミで紹介され全国で反響を呼んだことがきっかけとなり、全国各地で講演会活動をスタートされました。「息子のかなえられなかった夢や生きてきた姿を語ろう! 手紙は『生きる!』っていうメッセージ」と受け止められたそうです。

震災から17年目、東北支援活動で当時17歳だった盈進中学高等学校ヒューマンライツ部の部員との出会いがさらに生きる希望に。

「人はひとによって救われる。一通の手紙から多くの人との出会いを生み、その出会いが生きる希望になった。人は出会いによって変わることができる。素晴らしい人との出会い。人と出会うために学ぶ。学びを意識する。これからも出会いを大切に生きていきます。『心のスイッチをオンする出会い』のために」と結ばれました。